

項目	説明	
試料・情報の利用目的及び利用方法	研究課題名	治療切除後の局所進行胃癌患者における胃癌組織中の Pregnancy Zone Protein 遺伝子発現の臨床的意義
	研究対象者	2002 年 1 月 1 日～2010 年 12 月 31 日の期間に、当院で手術を施行され、pStagell/III 胃癌と病理診断された 253 症例。
	研究目的	Pregnancy Zone Protein (PZP) 遺伝子がコードする Pregnancy Zone Protein は $\alpha$ -2-マクログロブリンスーパーファミリーに属し、癌における炎症反応や免疫細胞の活性化に重要な役割を果たしている。しかし、胃癌と PZP の関係についてはあまり研究されていない。そこで、我々は、当院で根治切除を行なった pStagell/III 胃癌および近接正常粘膜の凍結検体における PZP 遺伝子の発現レベルと臨床病理学的因子および生存との関係を検討することで、PZP 発現の臨床的意義を明らかにする。
	研究方法	当院で包括同意をもらい根治切除を行なった pStagell/III 胃癌および近接正常粘膜の凍結検体より Total RNA を抽出し、定量 PCR 法にて PZP 遺伝子の相対的発現量を計測し、PZP 遺伝子の発現レベルと臨床病理学的因子および生存との関係を検討する。
	個人情報保護	対象となる患者さんの診療情報には個人情報が含まれますが、氏名や住所などの情報を削り、容易に個人を特定できないように研究用の番号（識別コード）で管理します。個人と識別コードを照合できるようにする対応表を作成しますが、パスワードロックや鍵をかけて厳重に保管し、院外へ提供することはありません。
	研究期間	西 暦 2 0 2 4 年 9 月 9 日 ～ 西 暦 2 0 2 7 年 3 月 3 1 日
	利用又は提供を開始する時期	[X]総長が研究実施を許可した日 [ ] 西 暦 年 月 日 頃（研究の進捗によって前後いたします）
利用する試料・情報の項目（チェック[X]が入った項目を利用します）	[X]試料:	[ ]血漿、[ ]血清、[ ]全血、[ ]末梢血から抽出した DNA、 [X]病理検体(具体的に記載:胃癌)、 [ ]尿、[ ]糞便、[ ]唾液、[ ]胸水、[ ]腹水、[ ]脳脊髄液、 [ ]毛髪、[ ]その他(具体的に記載: )
	[X]情報:	[X]診断名(臨床病期や分類、病理診断を含む)、[X]年齢、[ ] 生年月日、[X]性別、 [ ]既往歴、[ ]併存疾患、[ ]外来日・入院日・退院日、[ ]臨床検査値、[ ]放射線診断や超音波検査、内視鏡検査等の画像データ、[ ]臨床所見・経過（予後追跡データを含む）、[ ] ゲノムデータ、[ ]看護記録、[X]その他(具体的に記載: 手術日、再発日、最終確認日、生死)
試料・情報を利用する者の範囲	当センター研究責任者	所属・氏名 消化器外科 胃食道 大島 貴
	共同研究機関および責任者	なし
	その他の機関	なし
試料・情報の利用停止および情報公開に関する窓口	神奈川県立がんセンター・消化器外科 胃食道・大島 貴・ 連絡先 045-520-2222 利用停止のお申し出は 2025 年 3 月 31 日までをお願いいたします ただし、お申し出いただいた時にすでにデータが固定され、研究成果が論文などで公表されていた場合には、患者さんのデータを廃棄できない場合があります	